

第7回生存科学シンポジウム

生存への多様性

日時 令和元年 **12月21日(土)** **13時~17時** (開場 12:30)

場所 **上智大学四谷キャンパス 10号館 講堂**

プログラム

13:00 **開 会**

13:05~16:05 **講 演**

入場無料

どなたでも
参加できます

特別講演 多様性はなぜ必要か

池田 清彦 (生物学者・早稲田大学名誉教授)

講 演

人と自然の関係の多様性 -人間の生存環境を支えるもの-

佐藤 哲 (愛媛大学社会共創学部教授)

遺伝医学からみたヒトの多様性

福嶋 義光 (信州大学医学部特任教授)

現代日本のマイハリティと社会・文化の多様性

-外国にルーツを持つ子どもたちの視点から-

高畑 幸 (静岡県立大学国際関係学部教授)

16:10~16:55 **パネルディスカッション**

16:55 **閉 会**

問合せ ⇒ (公財) 生存科学研究所 <http://seizon.umin.jp>

TEL : 03-3563-3518 FAX : 03-3567-3608 e-mail : office@seizon.or.jp

主催 : 公益財団法人生存科学研究所

共催 : 上智大学生命倫理研究所

第7回 生存科学シンポジウム

生存への多様性

シンポジウム趣旨

人類をはじめとして、地球上のあらゆる生物の生存を可能にするために生物種の多様性がある。多様性は生物界でのあり方にとどまらない。人びとの作り上げてきた私たちの社会もまた、多様性を許容することで変化しつつ社会としての生存を許してきた。歴史的にも、文化的にも、空間的にも、多様性のないところでは環境の著しい変化に対応することはできないし、文化や社会の展開も望めず、人間を含むすべての生き物の豊かな生存も保障されない。多様性は未来に向かって生きるために最も必要な条件である。

しかし、人類は多様性を求める方向を回避する方向に揺れ動いているようである。さまざまなレベルで多様性が失われつつあるいま、ひとの生存を可能にする重要な鍵となる多様性について多視角から、多層的に見直していきたい。

微生物から動植物へ、人間へ、社会や文化へ、多様性の実態を見つめ、あるべき多様性を講師の方々から学び、そしてともに考えたい。よき生存は現在をおおう画一性や規格化の方向にはない。多様であってこそ生存は豊かとなる。それは当研究所の基本の願い、意図でもある。このシンポジウムが未来をひらく、多様な知の饗宴でありますように。

入場無料・申し込み不要（どなたでも参加できます）

上智大学 四谷キャンパス アクセスガイド



JR 中央線・総武線
東京メトロ
丸の内線・南北線
四ツ谷駅
麹町口から徒歩5分

※13号館
ソフィア通
正面入口が
ください。
員は、4号
の間の通
グセス可
生証また
が必要。

会場：上智大学四谷キャンパス 10号館 講堂

公益財団法人 生存科学研究所

当財団は、急速な科学の進歩により生じる新たな危機から人類を守るため、凡ゆる領域から総合的に『生存』問題に取り組む研究所として、医師会会長を長く務めた故武見太郎先生により 1984 年に設立されました。その活動はホームページに掲載されています。会員による『生存』に関する多様な視点からの自主研究、当面する重要課題への研究助成をはじめ、講演会、シンポジウム、学術誌「生存科学」などを通じ、広く一般の方々とその成果を共有するよう努めています。

ホームページ：<http://seizon.umin.jp>